

キリスト教保育

025年1月1日発行 毎月1回1日発行 第670号

年主題
さあ、漕ぎだそう
奏でよう

論説
保育の視点での
子どもの情緒の安定(2)
磯部裕子

小論
自然とのふれあい、
自然の中で遊ぶこと
村松亜希子



2025 JAN.

1

あなたがたがわたしを選んだのではない。
 わたしがあなたがたを選んだのである。

聖書 口語訳聖書・ヨハネによる福音書15章16節

今月の聖句は、ぶどうの木のたとえに続いての教えである。

主イエスとのつながりは、人格的な愛と生命の共同であり、みことばによる交わりなのである。今、私たちが貧しく、弱くても、真実に主イエスと結ばれ、つながっているならば、必ず実を結ぶに至るのである。

私たちの人生には、選ぶ人生と選ばれる人生とがある—自分の意志で選ぶという一面と自分の意志を超えた選ばれるという一面があると言えよう。私たちはあらゆる場面や生活の中で、大小さまざまな選びをなしつつ生きている。私たちは選びと決断の自由を持っているが、その選びの決断をなすとき、自分を中心に選ぶのではなく、愛によって選ぶことが大切である。愛によって選ぶとき、間違うことはないし、必ず実を結ぶに至るのである。

旧約聖書と新約聖書を貫いて、聖書における「選び」ということは、神と人間との関係を示す基本的に重要なことである。新約聖書においては、神はイエス・キリストを通して、民族や人種を超えてすべての人を招かれた。イエスの弟子たちを始め、すべての信徒、また教会も、選ばれた群れであった。神の選びは、人間のがわの資格や条件によるのではなく、全く恵みによることであり、まず神の恩寵によることであった。そして、選ばれた者には、自分の目的や価値ではなく、神の選びの器としての使命と目的があったのである。そのことに、正しく仕えることこそ実を結ぶことにほかならない。神に選ばれ、用いられていることを忘れて、私が勞し、私が仕えたと思うとき、本当の実を結ぶことはできないのではないか。

私が選び、私が努力したのではなく、神の方から人間の所まで、へりくだって出会いを与えられ、多くの人の中から私を選んでくださったと言わざるを得ない。選びの主体は私たちではなく、ただ恵みによって救われたという恩寵(おんちょう)の信仰に立つと、この驚くべき順序の顛倒(てんとう)(主体の転換)が起こるのである。

私たちは、主イエスに選ばれた者なのである。私たちはまたどのような選びをなしつつ、生きていくべきであろうか。道は遠く見えても、成長させたもう神の導きとみことばの力を信じて、希望をもってこの年も励みたいと思う。

(田井中 純作・執筆 時・日本キリスト教団倉敷教会牧師)
 1976年『キリスト教保育』誌1月号より

キリスト教保育

第670号1月号



年主題

さあ、漕ぎだそう 奏でよう

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 邦楽の世界から 越智義乃

〈論説〉 保育の視点での

子どもの情緒の安定(2) 磯部裕子

〈小論〉 自然とのふれあい、

自然の中で遊ぶこと 村松亜紀子

聖書に聞く・お話 月下星志

【カリキュラム】

1月 月のねがい表

心にとめて 寺田千栄

実践報告 マリア保育園

実践からの学び 湯元睦美

心にとめて 橋本礼子

実践報告 甲子園二葉幼稚園

実践からの学び 国府田郁恵

私たちの園では 赤坂洋子

表紙絵 田中横子
カット 中畝治子 小鯛みのり 藤安初枝 松成真理子 金井ユリ

2

3

4

6

14

18

〈連載〉 アタッチメント 遠藤利彦

〈連載〉 日々、子どもたちから

学んでいること 斎藤惇夫

目福口福耳福 熊田凡子

絵本のとびら 武田めぐみ

礼拝のお話 枘田知恵

風 菰田とみ子 編集子 西嶋佳弘

連盟だより

40

42

45

46

47

57

58

